別紙３

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書
オーダーメードな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防ストラテジーの確立に資する研究

研究分担者　　河野　豊　　徳島大学　大学院医歯薬学研究部　特任准教授

研究要旨　歯科領域における e-ラーニングを作成するにあたり、一般住民向けに作成された、肝炎ウイルスの感染経路に関する動画を歯科口腔外科医療従事者に視聴してもらい、視聴後にアンケート調査を行った。その結果、「B 型肝炎ウイルスの体外での感染力」「B 型肝炎ワクチンの追加接種」「C 型肝炎抗体検査陽性について」などの項目に関して十分な理解を得られてないことが判明した。以上の調査結果より、歯科口腔外科医療従事者にはこれらの項目に関する動画コンテンツ作成の必要性が判明した。

共同研究者
舞田健夫（北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系　高度先進補綴学分野）
寺島麻理子（北海道医療大学歯学部歯科衛生部）

A. 研究目的

歯科医療従事者向けにウイルス性肝炎の重大性が理解できる e-ラーニングのコンテンツを作成することを目的として、一般住民向けに作成された、肝炎ウイルスの感染経路に関する動画を歯科医療従事者に視聴してもらい、視聴後にアンケート調査を行った。

B. 研究方法

「肝炎ウイルスの感染経路について（作成；研究代表者　四柳宏)」動画を 15 分視聴してもらい、内容等に関するアンケート調査を行った。対象は北海道医療大学病院歯科口腔外科医 40 名および北海道医療大学同窓生の歯科口腔外科医 118 名（開業医創設者 73 名、開業医やクリニックの勤務医 20 名、大学病院勤務医 15 名、その他 7 名）であった。アンケート調査期間は、北海道医療大学病院歯科口腔外科医については 2022 年 7 月 27 日から 8 月 31 日、北海道医療大学同窓生の歯科口腔外科医については 2022 年 9 月 2 日から 11 月 11 日であった。

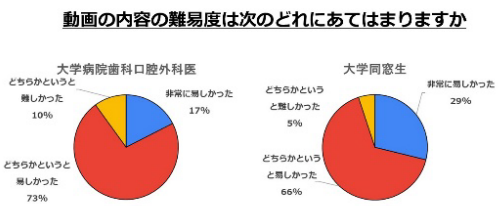
アンケート調査を集積して各選択肢に対する単純集計、クロス集計等を行った。

（倫理面への配慮）

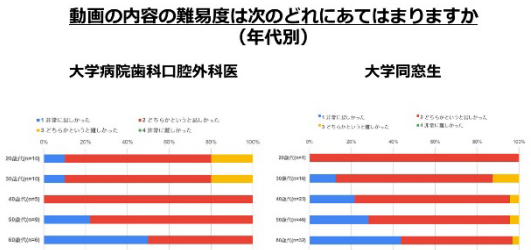
本研究は介入及び侵襲を伴わないアンケート調査であり、北海道医療大学病院ホームページにおいて研究対象者が拒否できる機会を保障する方法（オプトアウト）を用いた。また得られたアンケート調査結果は本研究発表以外には使用しないほか、個人が特定されるような情報が研究担当者以外に知られることないように厳重に管理した。

C. 研究結果

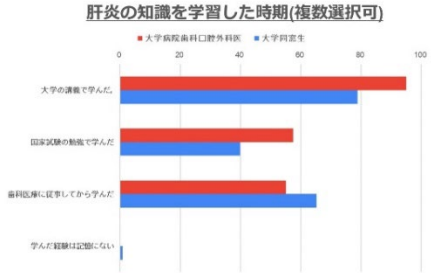
①動画内容の難易度：北海道医療大学病院歯科口腔外科医、同窓生ともに大部分は動画内容を理解できていた。



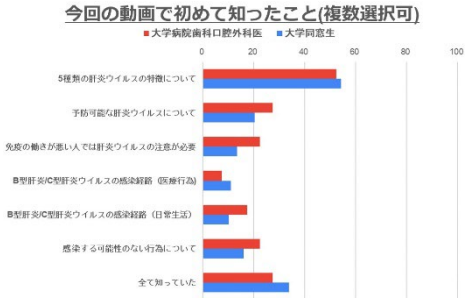
年代別で解析してみると、年齢層が若くなるにつれて動画に対する難易度が高くなる傾向が見られた（「非常に易しかった」の割合が減少）。



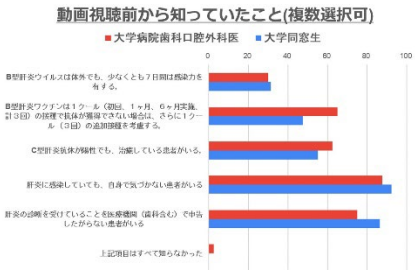
②肝炎の知識を学習した時期：8 割以上が大学の講義で学んでいた。一方実際に医療現場に出てからも学んでいる医療従事者が半分以上いた。



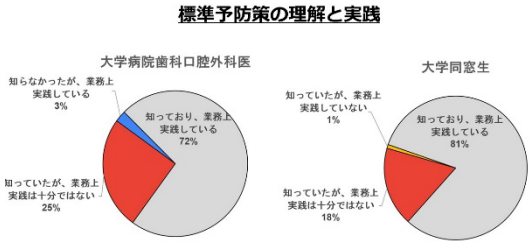
③肝炎について、本動画で初めて知った内容；動画視聴前から本動画の内容についてすでに理解していたのは全体の 3 割程度であった。「(B 型肝炎のような）予防可能な肝炎について」「免疫の働きが悪い人では肝炎ウイルスの注意が必要」「感染する可能性のない行為」等については約 2 割が本動画視聴で初めて理解していた。



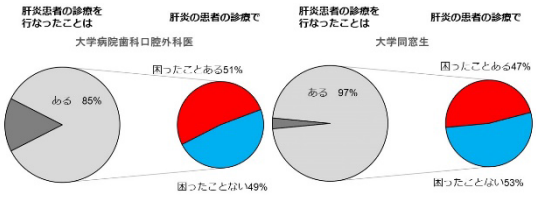
④肝炎について、本動画前からすでに知っていた内容；「B 型肝炎が体外で 7 日間感染力を有する」ことを知っていたのは全体の 3 割程度であった。また「B 型肝炎ワクチンの追加接種」や「C 型肝炎抗体が陽性でも治癒している患者がいる」については、半分程度の医療従事者が知らなかった

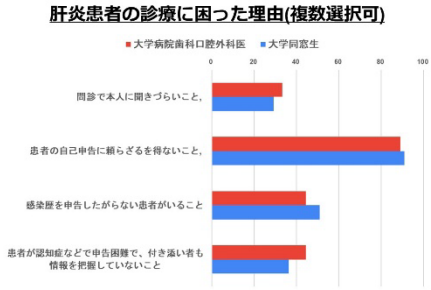


⑤標準予防策の理解および実践：7 割から 8 割の歯科医療従事者は、標準予防策の理解および実践が十分にされていた。一方約 2 割は、業務上で標準予防策が十分でないと申告していた。

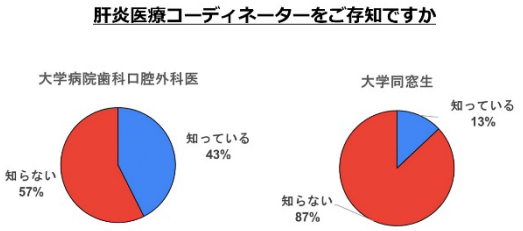


⑥肝炎患者の診療状況：多くの歯科医療従事者が肝炎患者を診察した経験があり、その半数で「肝炎患者の診療で困ったことがある」と回答していた。「診療で困った」理由としては、「感染しているかどうかについては、患者の自己申告に頼る」が一番多く、「感染を申告したがらない」「問診で本人に聞きづらい」なども次いで多かった。

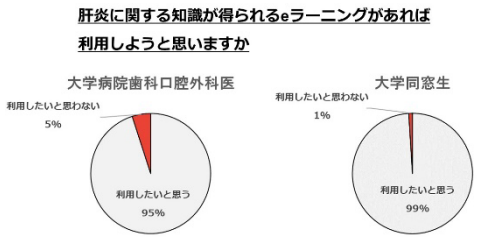




⑦肝炎医療コーディネーターについて：大学病院の歯科医療従事者は半数程度が肝炎医療コーディネーターを知っていたが、歯科同窓生で知っていたのはわずか13%だった。



⑧e ラーニングの利用について：95%以上の歯科医療従事者が肝炎に関する e ラーニングの利用を希望されていた。



D. 考察

歯科領域における効果的な e ラーニングの内容を作成する上で、歯科医療従事者の肝炎や感染予防に対する理解度を評価することが、本年度の研究目的だった。具体的には、一般市民向けの肝炎に関する動画「肝炎ウイルスの感染経路」を視聴してもらい、内容に関するアンケート調査を行った。

一般市民向けの肝炎に関する内容の難易度としては概ね理解できているようであったが、若年層ほど理解の程度が低い傾向にあった。このことは、歯科医療従事者の大半は大学在学中に肝炎の学習を受けたにも関わらず、肝炎患者を実際に診療した経験の方が重要であると考えられた。すなわち、歯科医療現場に出てからも、肝炎に関する継続的な学習の必要性があることが判明した。

肝炎に関する知識については、「(B 型肝炎のような) 予防可能な肝炎について」「免疫の働きが悪い人では肝炎ウイルスの注意が必要」「B 型肝炎が体外で 7 日間感染力を有する」「B 型肝炎ワクチンの追加接種」「C 型肝炎抗体が陽性でも治癒している患者がいる」などについては、十分に理解しているとは言い難い結果であった。そのため、歯科医療従事者自身の感染対策に対する懸念のみならず、肝炎感染患者に対する差別・誤解を生む可能性が考えられた。また、一般歯科開業医（歯科同窓生）では、肝炎医療コーディネーターについてほとんど認知してない結果であった。このことは、歯科医療で受診された肝炎患者さんを速やかに肝炎の診断や治療に進めるために、その存在について十分に認知する必要が考えられた。

以上の研究結果および昨年度までの研究成果をもとに、次年度以降については、e ラーニングのシナリオを作成し、その妥当性を検証していく予定である。

E. 結論

歯科医療従事者向けの e-ラーニング作成目的として、一般市民向けの肝炎に関する動画を視聴してもらい、アンケート調査を行った。その結果、「肝炎についての正しい知識」「患者への差別・誤解を生まないような配慮」および「肝炎医療コーディネーターの啓蒙」などに関する動画コンテンツの作成が歯科医療従事者にとって特に必要であることが判明した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし